

霧島錦江湾国立公園
ステップアッププログラム 2025

国立公園満喫プロジェクト
霧島錦江湾地域協議会

2021 年 1 月 29 日策定

目次

はじめに	P1
1. 現状分析	P3
(1) 霧島錦江湾国立公園の特徴	
(2) 2020年までの取組状況	
(3) 霧島錦江湾国立公園の利用状況	
(4) 霧島錦江湾国立公園が有する課題	
2. コンセプトと取組の方針	P14
(1) 霧島錦江湾国立公園のコンセプト	
(2) コンセプトを支える魅力と取組の方針（方向性）	
(3) ターゲット	
3. 目標	P16
4. プロジェクトの実施	P17
(1) 重点施策、集中的に行う取組	
(2) 霧島錦江湾国立公園全体に関する取組	
(3) 国立公園地域別の取組方針等	
(4) プロモーション	
5. 効果検証	P22
(参考) 国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会 設置要綱	P23
国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会 構成員	P25

はじめに

2016年3月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を2020年までに4,000万人、2030年までに6,000万人とすること等が新たな目標として掲げられました。

この目標を達成し、なおかつ裾野の広い観光を通じて活気ある地域社会の実現を目指すためには、これまでに十分活用されていないものも含め、我が国の自然・文化・気候・食等の豊かな観光資源を活用することが必要となります。

その点、我が国の国立公園は、豊かな自然のみならず、地域に根ざした生活文化や地場産業、食等の魅力ある観光資源を有している一方、十分にそのポテンシャルが発揮されていませんでした。

そこで上記のビジョンを踏まえ、日本の国立公園を世界のナショナルパークとしてのブランド化を図ることを目標に、「国立公園満喫プロジェクト」として、2020年までに訪日外国人を引きつける取組を計画的、集中的に実施し、訪日外国人の国立公園利用者数増加を目指すこととなりました。

上記の目標を達成するため、全国の公園の中で、世界最高水準の「ナショナルパーク」づくりという改革に挑戦する候補地として、先行的、集中的に取組を実施する国立公園として、霧島錦江湾国立公園が「多様な火山」と『環霧島』の自治体連携」が評価のポイントとなり選定されました。

その後2016年度から2020年度までの5年間、霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2020（以下、「前ステップアッププログラム」といいます。）に基づき、地域関係者が協力してプロモーション、施設整備、多言語化、アクセス改善等に取り組み、国立公園内の外国人利用者数が2015年の7.1万人から2018年に14.2万人に倍増し、満足度も向上するなど、一定の成果が出ました。同時に、コンテンツの造成、施設の改修、公園内へのアクセス等はさらなる改善の余地があります。

本ステップアッププログラムは、2016年度から2020年度までの5年間を計画期間とする前計画に引き続き、2021年度から2025年度までの5年間を計画とする“ロードマップ”として、行政、民間からなる霧島錦江湾地域協議会において、その具体的な取組の方向性を位置づけるものです。

前計画には記載されていない本計画策定時の新たな状況として、新型コロナウイルスの影響により国内外の利用者数が大幅に減少しています。ウィズコロナ、アフターコロナの観点から、まずは国内観光、地域内観光から誘客を推進するなど、一定の留意が必要です。

また、本ステップアッププログラム策定後も霧島錦江湾地域協議会を年1回程度開催することとし、その中で目標の達成度合いを評価しその後の取組に反映させ、それに応じて本ステップアッププログラムも改訂していきます。

この「国立公園満喫プロジェクト」では国立公園の国内利用者・訪日外国人利用者数や利用の質の向上を一つの目標としていますが、最終的に目指すべき姿は、地域の自然・文化・食・人等の活用による観光振興によって地域がより活性化され、そして地域の方々が地域の暮らしに希望と誇りを持つことで持続的な取組に繋がり、さらにそれが次世代に継承されていくことに変わりはありません。

そのためには、今後も本公園が持つ資源のポテンシャルを最大限に活用するとともに、九州全体が一体となった広域的な視野を含めた取組が必要です。

1. 現状分析

(1) 霧島錦江湾国立公園の特徴

当公園は、1934（昭和9）年に指定された我が国最初の国立公園のひとつです。加久藤・小林カルデラ、始良カルデラ、阿多カルデラという3つの巨大カルデラ火山の列で構成される日本で唯一の特徴を持つ国立公園で、複合火山の霧島山塊からなる霧島地域、我が国随一の海域カルデラ景観を有する錦江湾地域からなります。国立公園全体で海面から山頂まで1,700mの標高差があり、多種多様な地形・景観・生態系を楽しむことができます。

本プログラムの策定にあたっては、当公園内の地域性に鑑み、錦江湾地域を改めて「桜島・錦江湾奥地域」、「指宿・佐多地域」とし、「霧島地域」をあわせたこれら3地域について、それぞれの固有の背景や共通の課題等に対応した分析を行いました。



—アクセスルート情報—

霧島錦江湾国立公園への玄関口は、国際線や羽田空港等の都市圏の国内線が就航する鹿児島空港や宮崎空港、海外からのクルーズ船が寄港する鹿児島港（マリンポートかごしま）（新型コロナウイルスの感染拡大により海外からのクルーズ船寄港は大幅に減少中）や油津港、さらには福岡等の北九州方面から九州新幹線を利用して鹿児島中央駅へ至るルートが考えられます。

また、九州域内では九州道（高速道路）を利用した車の利用者も多くいます。



□霧島地域は

加久藤・小林カルデラの南縁に位置し、国内では類を見ない 20 数座の火山と多くの火口湖が集中する火山群です。近年では 2011（平成 23）年及び 2017（平成 29）～2018（平成 30）年に新燃岳が、また 2018(平成 30)年には 250 年ぶりに硫黄山が噴火するなど、現在も活発な火山活動が見られます。ノカイドウやミヤマキリシマ、ヤイロチョウなど貴重な野生動植物の宝庫であるとともに、硫黄泉や炭酸水素塩泉など、多種多様な泉質の温泉が点在しています。また、頂上に神が降臨の際に突き立てたとされる「天の逆鉾」が立ち、日本神話の天孫降臨の地とされる高千穂峰や、渡来人の望郷の地ともいわれる韓国岳など、神話・伝承に彩られ、周辺にはこれにまつわる神社、史跡等が多数存在しています。



新燃岳(2020 年)



ノカイドウ



高千穂峰

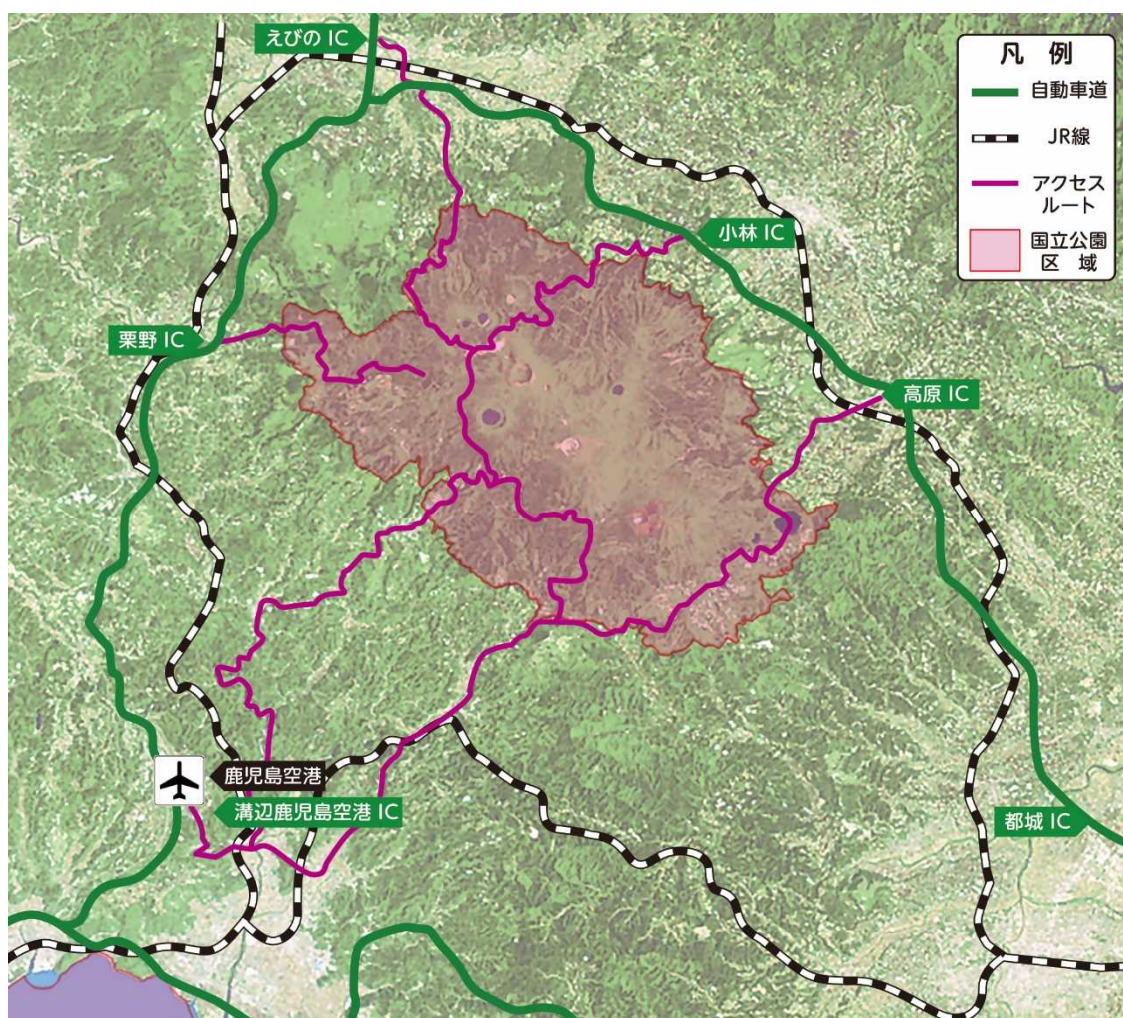
—霧島地域までのアクセスルート—

- ・九州自動車道及び宮崎自動車道の IC から主要道（国・県道）を通るルート（小林 IC からの県道 1 号は、2020 年 10 月現在硫黄山の火山活動により通行止めとなっています。）
- ・鹿児島空港から主要道（国・県道）を通るルート

（参考）最寄り IC 及び駅

自動車道：えびの IC、栗野 IC、小林 IC、高原 IC、都城 IC、溝辺鹿児島空港 IC

JR 駅：えびの駅、栗野駅、霧島温泉駅、霧島神宮駅、小林駅、高原駅、都城駅など



□桜島・錦江湾奥地域 は、

巨大噴火により形成された始良カルデラの陥没地形で、現在も活発に火山活動が続ける桜島を象徴とし、ダイナミックな大地の形成、豊富な温泉の他、薩摩藩にちなむ歴史・文化的資源など、自然と人文とが調和した特色ある景観を有しています。桜島は世界的にも有名な活火山であり、約 100 年前（1914 年）の大規模噴火では流出した溶岩によって大隅半島と陸続きになるなど、幾多の噴火によって島の地形は大きく変貌を続けています。錦江湾奥地域には桜島をとりまくように展望地が存在し、錦江湾と桜島火山をさまざまな角度から楽しむことができます。



桜島



重富海岸



高峠

—桜島・錦江湾奥地域までのアクセスルート—

- ・鹿児島港フェリーターミナルから定期船を利用するルート
- ・九州自動車道及び東九州自動車道等の IC から主要道（国・県道）を通るルート

（参考）最寄り IC 及び駅

自動車道：鹿児島 IC、始良 IC、隼人東 IC、国分 IC

JR 駅：鹿児島中央駅、鹿児島駅、竜ヶ水駅、重富駅、始良駅

港：（定期船）桜島港フェリーターミナル、垂水フェリーターミナル



□指宿・佐多地域 は、

亜熱帯性植物とともに、断崖からの展望や、多種多様な火山由来の地形を見ることができます。

指宿地域は、池田湖、開聞岳及び長崎鼻等、阿多カルデラに起因する様々な火山景観があり、温泉保養及び風景観賞等の観光利用が盛んです。地域のシンボルともなっている開聞岳（標高 924m）山頂からは 360 度の眺望が開けており、天気の良い日には霧島連山や屋久島まで見渡すことができます。

佐多地域は本土最南端の佐多岬と雄川の滝（2018（平成 30）年に国立公園に編入）が主に利用されています。佐多岬の亜熱帯性植物と海岸の勇壮な断崖景観は第一級で、海岸探勝、風景探勝の観光地として親しまれています。また、雄川の滝はエメラルドグリーンの滝壺と幾何学模様の岩肌のコントラストが魅力で、近年観光客が増加しています。海域公園地区では、サンゴの海特有の色彩豊かで多種多様な生き物を楽しむ利用も行われています。



池田湖畔から望む開聞岳



知林ヶ島



佐多岬

—指宿・佐多地域までのアクセスルート—

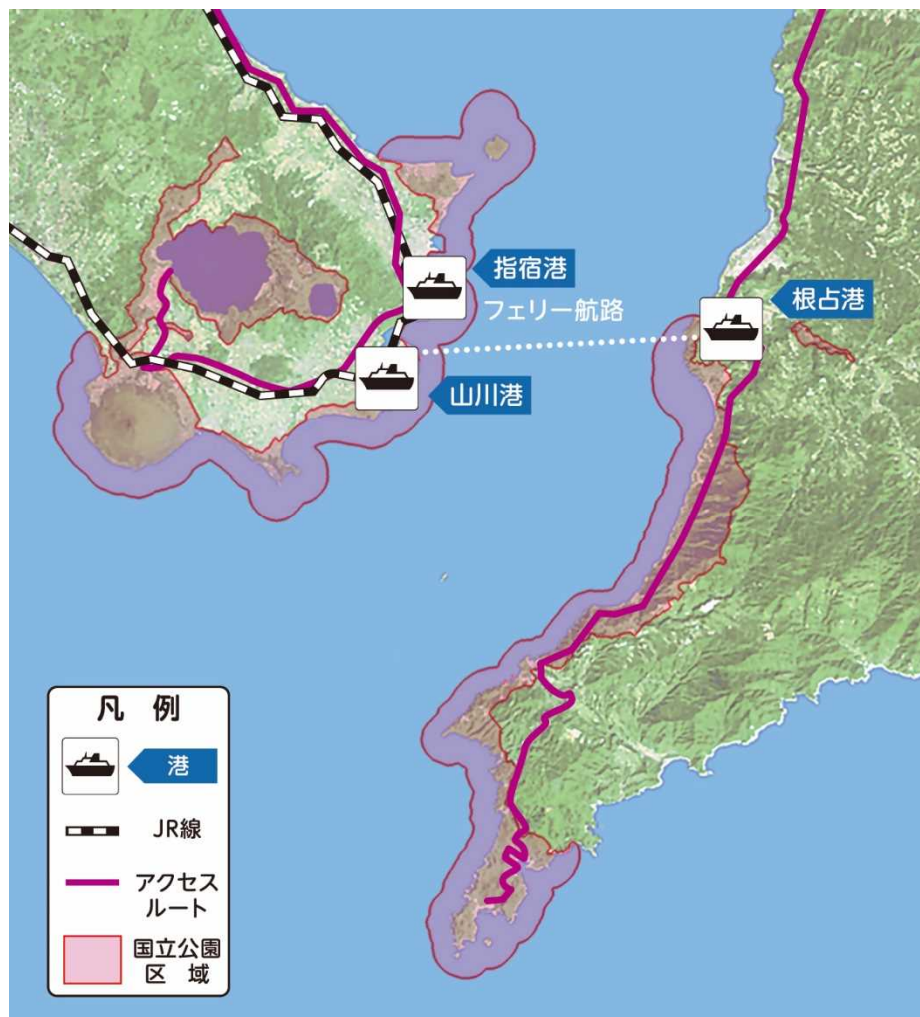
- ・鹿児島市内から指宿地域に向かう主要道（国・県道）を通るルート
- ・最寄り駅から主要道（国・県道）を通るルート
- ・鹿児島港南埠頭から高速船、山川港と根占港の定期船を利用するルート
- ・根占港から佐多地域へ向かう主要道（国・県道）を通るルート

（参考）最寄り駅及び港

JR 駅：指宿駅、山川駅、開聞駅など

港：（定期船）山川港、根占港

（高速船）鹿児島港南埠頭、指宿港



(2) 2020年までの取組状況

前ステップアッププログラムに基づき、上述の特徴を活かすため、地域関係者が協力して施設整備等の利用環境整備、コンテンツ造成、アクセス改善、プロモーション等、多岐にわたり取り組んできました。

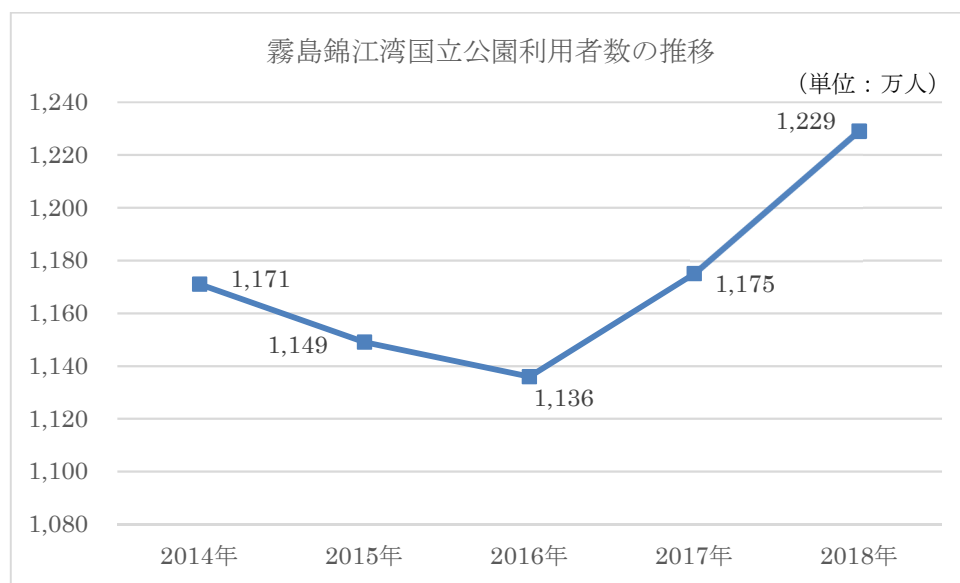
利用環境の整備については、一例として、佐多岬における展望台・公園エントランス等の一体的整備、雄川の滝における展望デッキや遊歩道等の整備、白鳥山の二湖パノラマ展望台におけるウッドデッキ等の整備、大浪池における休憩所の整備があります。また、重富なぎさミュージアムや鰻池周辺には大型バスが利用可能な駐車場が整備されました。これら施設整備の他に、各地で掲示物、Web サイト、パンフレットで多言語対応が進展し、また、交通拠点・利用拠点の少なくとも 20 箇所以上で Wi-Fi 環境が整備されています。

コンテンツ造成については、一例として、霧島地域でロングトレイル 5 日間のコース案を策定し、池田湖、白紫池、重富海岸等で水上アクティビティが導入・試行実施されたほか、えびの高原や重富海岸で利用と保全の好循環を図る滞在型プログラムが造成されました。

アクセス改善については、一例として、山川港から船と連携した佐多岬・雄川の滝等を巡る周遊バス（ガイド同乗）が運行開始したほか、霧島市内では丸尾から登山口まで結ぶ周遊バスの運行に加え、主要観光地を巡る周遊バスを新たに実証運行し、また、鹿児島空港～えびの間で観光コンテンツを組み合わせた実証バスが運行されました。

プロモーションについては、一例として、Web サイトやパンフレットを活用した他、国立公園フォトコンテスト・インスタミート等の開催や、各種商談会への参加等が行われました。

（３）霧島錦江湾国立公園の利用状況

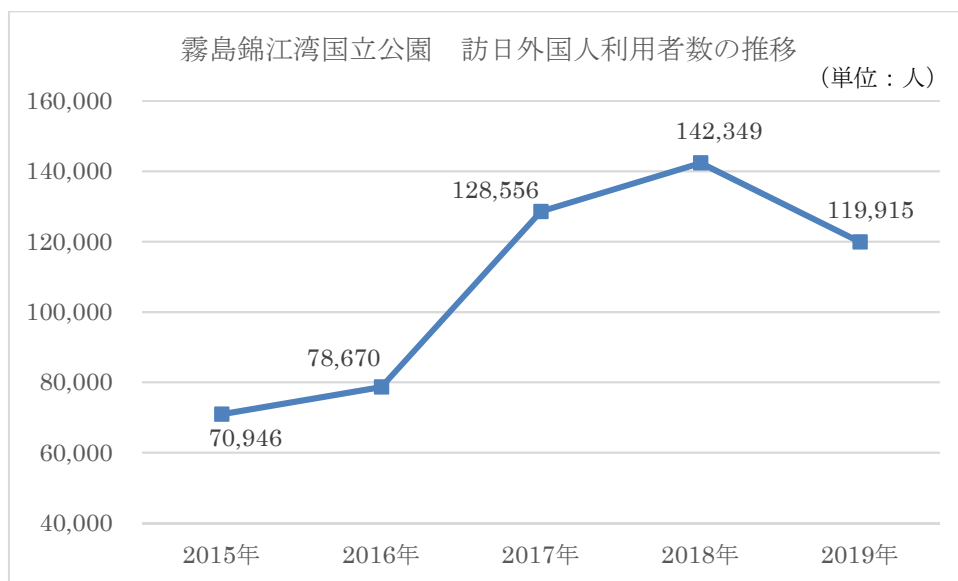


（出典：自然公園等利用者数調査 国立公園利用者数（公園、年次別），2014～2018）

図 1）霧島錦江湾国立公園利用者数の推移

霧島錦江湾国立公園で満喫プロジェクトが開始した 2016 年以降、国内外を合計した利用者数は、新型コロナウイルスの感染拡大影響前の 2018 年まで増加し、1,229 万人に達しました。

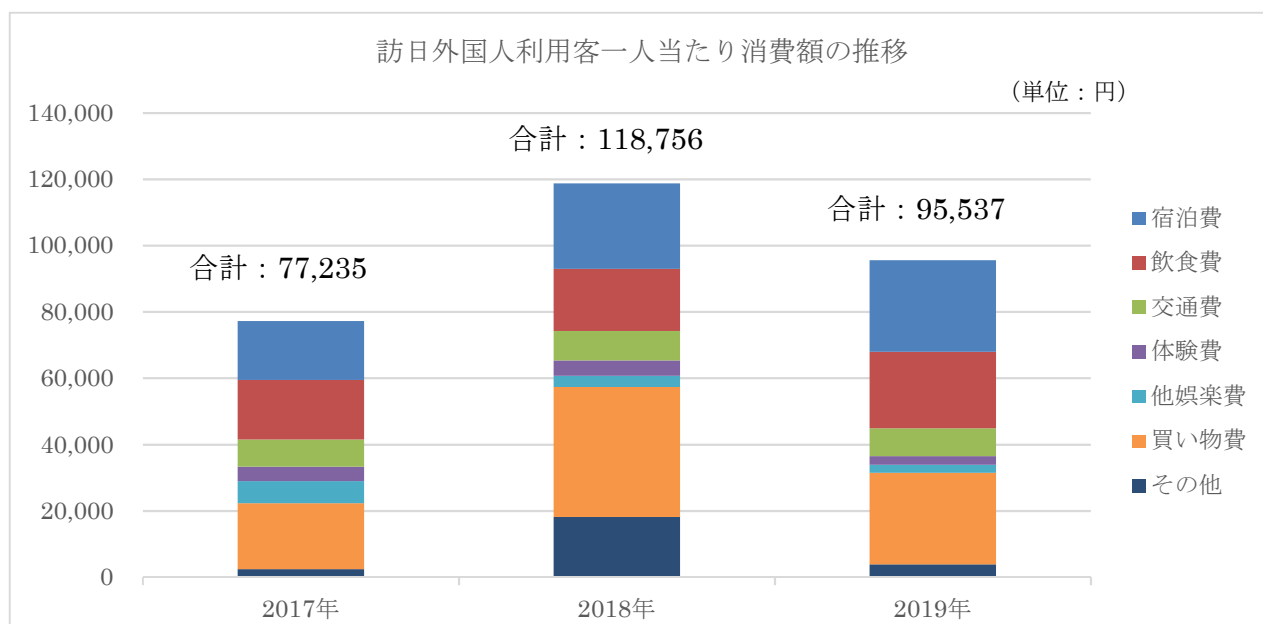
利用者のほとんどは国内利用者です。



(出典：環境省推計値（令和2年度国立公園における訪日外国人利用者数の補足推計業務報告書より）)

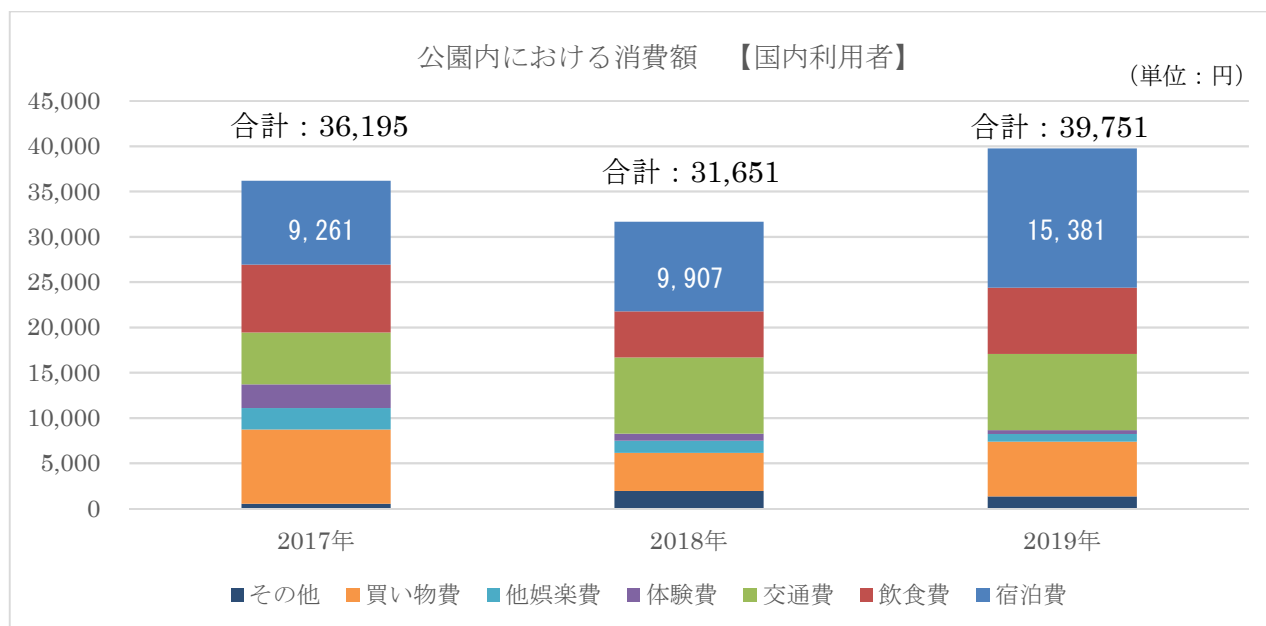
図2) 霧島錦江湾国立公園 訪日外国人利用者数の推移

訪日外国人利用者数について、霧島錦江湾国立公園で満喫プロジェクトの開始前である2015年の約7.1万人と比較すると、満喫プロジェクト開始後の2018年時点では約14.2万人と倍増しましたが、日韓関係の悪化の影響等により2019年には約12万人に減少しており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2020年にはさらに大幅な減少が見込まれます。



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省），2017年度～2019年度）

図3) 訪日外国人利用客一人当たり消費額の推移



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省），2017年度～2019年度）

図4）国内利用者一人当たり消費額の推移

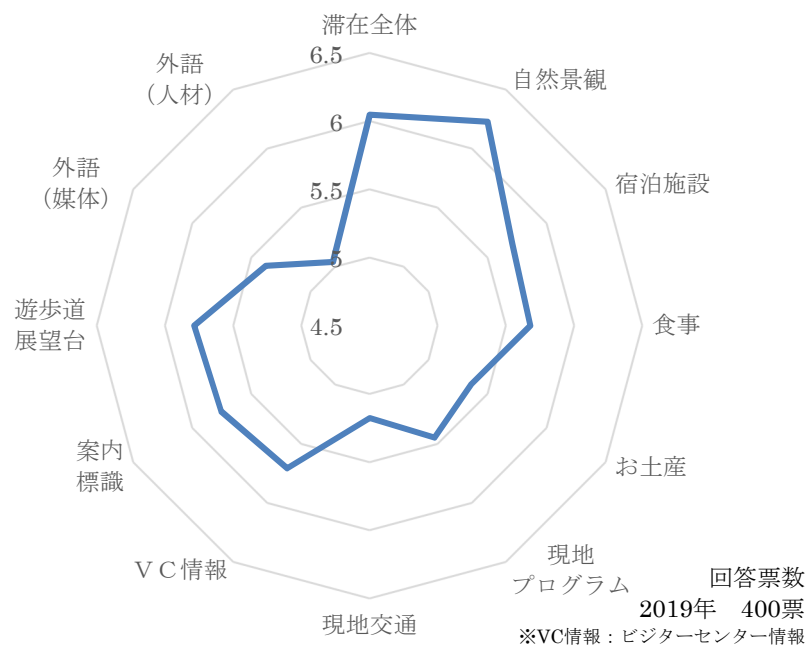
一人当たり消費額には毎年増減がありますが、国内利用者に比べ訪日外国人のほうが2～4倍程度高く、国内外ともに宿泊費、買い物費、飲食費の比率が高いです。

また、国内利用者一人あたりの宿泊費は2017年9,261円、2018年9,907円と比較して、2019年15,381円と増加していましたが、県内客の比率が高まっており（※1）、県内客は県外客と比較して日帰り旅行が多い（※2）ため、国内利用者数の一人あたり宿泊費は2020年には減少が想定されます。

※1：鹿児島県観光動態調査によると鹿児島県内における宿泊のうち県内旅行による比率が2019年度は20%前後でしたが、2020年度は31～43%で推移。

※2：平成30年宮崎県観光入込客統計調査結果に基づいて集計すると、宮崎県への観光客のうち、県外客の44%は宿泊するが、県内客は2.8%のみが宿泊。

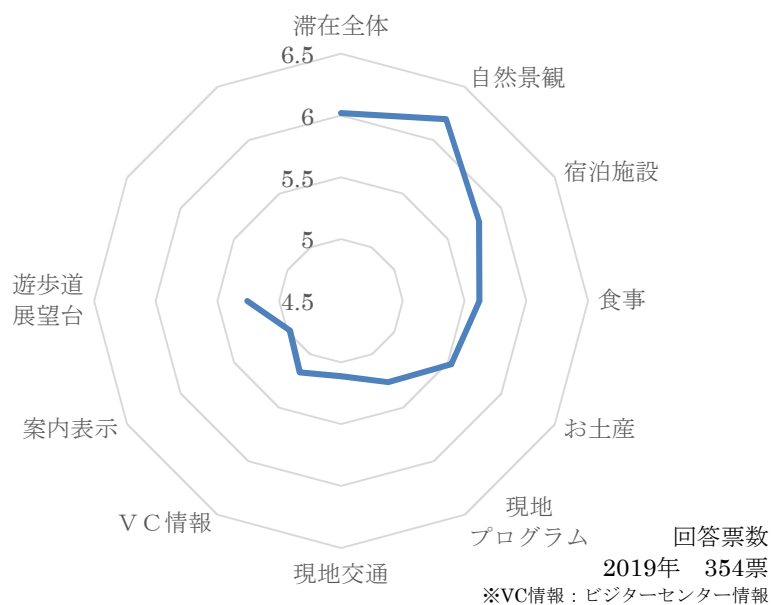
2019年項目別の満足度【訪日外国人】



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省），2019年度）

図5）2019年項目別の満足度（訪日外国人）

2019年項目別の満足度【国内利用者】



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省），2019年度）

図6）2019年項目別の満足度（国内利用者）

訪日外国人、国内利用者共通で満足度が他項目よりも相対的に高い自然景観について、利用者からは桜島、霧島連山、佐多岬、開聞岳、生駒高原のコスモス、仙巖園等の景観が素晴らしかったという意見が多数ありました。

訪日外国人、国内利用者共通で満足度が他項目よりも相対的に低い現地交通及び現地プログラムについて、利用者からはレンタカーを借りないと移動が困難、バスの本数が少なく情報がわかりにくい、閉園時間が早い、アクティビティが少ないという意見が多数ありました。

(4) 霧島錦江湾国立公園が有する課題

上述のとおり、霧島錦江湾国立公園では、多様な火山地形や温泉等の火山の恵みが大きな魅力となっており、それを活かす取組を進めてきた結果、新型コロナウイルスの感染拡大前までは利用者数の増加、国内利用者一人あたり宿泊費の増加等で一定の成果が確認されました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により比率が増えている県内・近県からの来訪者の多くは日帰りのため(※1)滞在時間が短く宿泊等に伴う消費額が少ない(※2)傾向があるとともに訪日外国人及び国内利用者に共通して現地交通の満足度が他項目よりも低く、かつ公園内への誘導に改善の余地があるため、その魅力を十分に伝えられていない状況にあります。

また、夜間・早朝プログラムを含めてアクティビティの増加を求める意見もある中で、体験プログラムの造成や交通アクセス改善等を担う民間との連携も途上です。

※1：平成30年宮崎県観光入込客統計調査結果に基づいて集計すると、宮崎県への観光客のうち、県外客の44%は宿泊するが、県内客は2.8%のみが宿泊。かつ宮崎県への宿泊客のうち、県外客は27%が2泊以上だが、県内客は8%のみが2泊以上。

※2：平成30年宮崎県観光入込客統計調査結果によると、観光目的での観光消費単価は、県外客の宿泊客は24,208円、県外客の日帰り客は7,797円、県内客の宿泊客は13,734円、県内客の日帰り客は4,415円。

2. コンセプトと取組の方針

(1) 霧島錦江湾国立公園のコンセプト

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾
～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～

(2) コンセプトを支える魅力と取組の方針（方向性）

多様な火山地形と火山の恵み、神話と伝承を辿り楽しむ 霧島地域

【取組の方針】

- ・多様な火山地形や火口湖の景観を活かした上質な宿泊施設又はグランピングの誘致及び魅力的なアクティビティのさらなる開発を進めます。
- ・多種多様な泉質を誇る温泉、湧水、神話や史跡、伝統文化、食などの地域資源を自然体験と組み合わせ、多様なニーズに対応できるツアープログラム（ロングトレイル、e-bike 含む）の磨き上げを行います。
- ・既存のガイド団体の取組を活かした地元ガイドの育成・充実を図ります。
- ・県道1号線の再開を踏まえ主要交通拠点からの二次アクセスの充実を検討します。
- ・霧島ジオパークの取組と連携して事業を進めます。

陸から海から活火山桜島を間近に体験、雄大な桜島の眺望を楽しむ 桜島・錦江湾奥地域

【取組の方針】

- ・桜島・錦江湾ジオパークの取組と連携したプロモーションを進め、ツアープログラム開発の充実やガイド活用に努めます。
- ・桜島内外の周遊観光ルートの整備を検討・推進します。

多様な温泉と開聞岳の眺め、海岸の断崖景観と亜熱帯性植物の 指宿・佐多地域

【取組の方針】

- ・ツアープログラム開発や、既存のガイド団体の活躍を図ります。
- ・主要な観光地点を活かした滞在型観光の拠点となる施設整備やコンテンツ造成を進めます。
- ・周遊観光ルートの整備を検討します。

(3) ターゲット

霧島錦江湾国立公園への訪日外国人利用者が不透明な中、新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまでは、国内さらにはエリアを絞り九州内、隣県、県内などからの利用者のうち、特に宿泊や有料プログラム等により地域内での消費が多い利用者をターゲットとします。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した際には、地域の実情を踏まえて、上記ターゲットに加え霧島錦江湾国立公園への訪日外国人利用者数のうち、9割以上を占めるアジア地域からの誘客を中心に、客単価の高い欧米豪の個人旅行客市場の開拓も徐々に進めていきます。

3. 目標（～2025 年）

（1）利用者数

霧島錦江湾国立公園は新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまで当面、新型コロナウイルスによる影響前の国内利用者数の復活を目標とします。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した際には、地域の実情を踏まえて、まずは、新型コロナウイルスによる影響前の訪日外国人利用者数の復活を目標とします。

（2）質に関する目標

国内利用者一人当たり消費額の増加及び満足度の更なる向上を目指します。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した際には、地域の実情を踏まえて、訪日外国人利用者一人当たり消費額の増加及び満足度の更なる向上を目指します。

4. プロジェクトの実施

(1) 重点施策、集中的に行う取組

当面は国内さらにはエリアを絞り九州内、隣県、県内などからの利用者を重点的なターゲットとした上で、当公園において一人当たりの消費額が少ないという課題に対しては、滞在時の消費額を上げるため、特に夜間・早朝の体験プログラムの開発・充実等やロングトレイルの設定等を通じて新たな魅力を創出し、宿泊や有料プログラム利用につなげることを重点事項とします。

また、アクセス改善も含めた本公園への誘導に関する課題に対して、プロモーションや交通手段の充実等の取組を重点事項とします。また、これらの取組を進めるにあたって、サステナビリティの視点と保護と利用の好循環の形成を重視することとし、さらには、体験プログラム、宿泊、交通、施設管理等を担う民間事業者や、地域振興を通して地域経済と密接に関与している銀行との連携を重点事項とします。

また、肥後銀行、大分銀行、宮崎銀行、鹿児島銀行と環境省九州地方環境事務所は、中・南九州の地域循環共生圏に関する連携協定を締結しており、その一環で国立公園等の地域資源の持続的な活用を通じた地域活性化（e-bike の導入等）に関して引き続き連携します。

(2) 霧島錦江湾国立公園全体に関する取組

1) 人材育成

地域の自然や文化を案内できる既存の地元ガイドについて、インタプリテーション能力の向上を図るなどの更なる育成を検討するとともに、各種コンテンツの担い手となる民間事業者の雇用を維持するよう支援します。

2) インナーブランディング

霧島錦江湾国立公園の魅力について、地域協議会等の各種会議や事業者ワーキング等を通じて、関係行政機関や事業者等で共有します。

3) 二次交通

霧島錦江湾国立公園内外の周遊性を向上させるため、陸上では鉄道、バス、レンタカー、自家用車、タクシー、自転車等のうち各地域にマッチする交通手段を活用するとともに、海域ではフェリーを活用し、鹿児島空港、宮崎空港、鹿児島中央駅、鹿児島港、油津港等の交通拠点からの二次交通の維持・改善に努めます。

4) エリア間や全体としての取組

既存の施設・空間を活かし、官民連携により夜間・早朝も含めた体験プログラムの開発・充実を図り、新たな魅力を創出して宿泊や有料プログラム利用につなげるよう官民連携で努めます。

また、周辺の自然公園との周遊性向上に努めます。

利用者及び受入側の安心・安全のために、新型コロナウイルスの感染対策に努めます。

加えて、多言語対応の更なる充実について検討します。

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを表明した鹿児島県、鹿児島市と連携し、脱炭素に向けた取組を検討します。

(3) 国立公園地域別の取組方針等

霧島錦江湾国立公園の各3地域の魅力と取組の方向性は、以下のとおりです。

- ・ 多様な火山地形と火山の恵み、神話と伝承を辿り楽しむ 霧島地域
- ・ 陸から海から活火山桜島を間近に体験、雄大な桜島の眺望を楽しむ 桜島・錦江湾奥地域
- ・ 多様な温泉と開聞岳の眺め、海岸の断崖景観と亜熱帯性植物の 指宿・佐多地域

1) 霧島地域

＜受入環境づくりの取組方向＞

- ・ 上質な宿泊施設（グランピング等）を含めた宿泊施設の誘致を検討し、多様な宿泊サービスを導入します。
- ・ 滞在環境上質化を目的として、老朽化施設の撤去を含めて一体的に景観改善を図ります。
- ・ 宮崎県側からのアクセスやe-bikeの導入も含めて二次交通の改善に努めます。
- ・ 新燃岳や硫黄山の火山活動を前提として利用者等の安全確保を図るため、引き続き火山防災活動を推進します。

＜自然体験プログラム＞

- ・ 霧島連山においてロングトレイルを新たに設定・広報し、滞在時間の長期化を図ります。
- ・ 火口湖の水面を活かした新たなアクティビティを導入します。
- ・ 民間事業者や地方銀行との連携により、周遊性を高めるアクティビティを導入します。

2) 桜島・錦江湾奥地域

＜受入環境づくりの取組方向＞

- ・ 民間事業者との連携により、交通拠点の近くに新たな宿泊施設を誘致します。
- ・ 民間事業者との連携により、二次交通等の利便性を充実させるなど、主要な観光コンテンツへのアクセスを改善します。
- ・ 桜島・錦江湾ジオパークとの連携により、錦江湾奥地域での周遊性を向上します。

<自然体験プログラム>

- ・民間事業者との連携により、桜島及び錦江湾を活かした新たな環境保全型の自然体験型ツーリズムを実施します。

3) 指宿・佐多地域

<受入環境づくりの取組方向>

- ・滞在環境のさらなる上質化が必要な利用拠点において、施設の新たな整備や改修を行います。
- ・利用拠点に整備された駐車場等の施設を活かして、利用者負担による滞在環境の上質化を検討します。
- ・指宿と大隅半島の周遊性を重視し、フェリーに接続する二次交通の維持に向けて検討します。

<自然体験プログラム>

- ・官民連携により、利用拠点に整備された施設を活かして、近隣への宿泊を伴う新たな夜間利用として佐多岬での星空観察会等を実施します。

(4) プロモーション

1) 全国レベル

環境本省においてとりまとめる 2021 年度以降のプロモーション戦略及び国立公園統一マークの使用ルールガイドライン等に基づいてプロモーションを実施します。

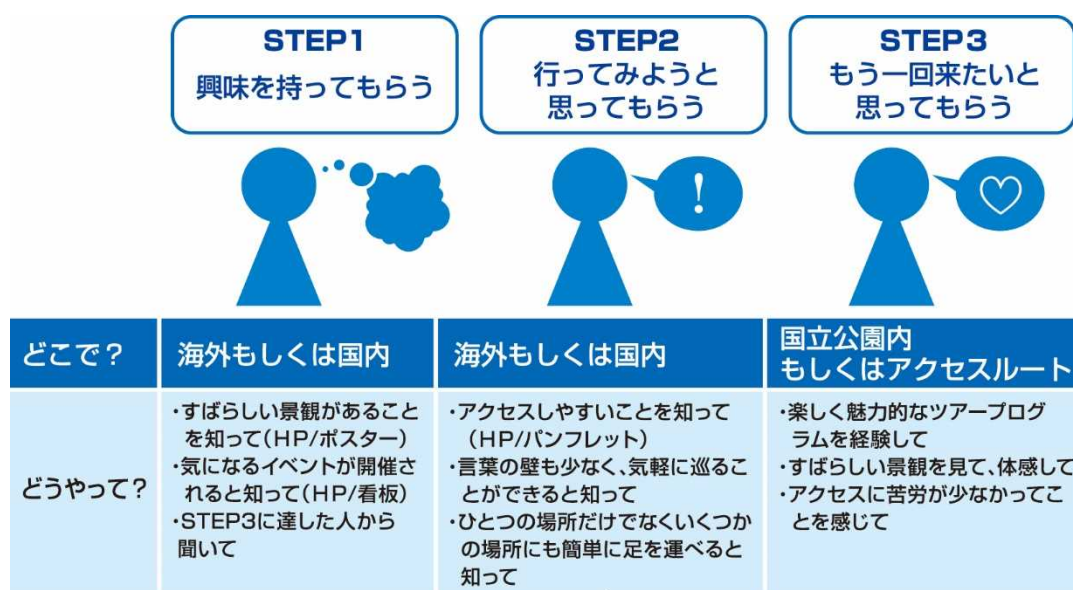
2) 地域レベル

国立公園のプロモーションについては、「霧島錦江湾国立公園」という枠にとらわれず、九州を一体的にとらえて効果的な発信をしていく必要があることから、観光庁や九州観光推進機構をはじめ、九州各県、DMO 等と連携したプロモーションを実施します。

プロモーションでは、「興味を持ってもらう」「行ってみようと思ってもらう」「もう 1 回来たいと思ってもらう」という段階を踏まえた取組を行っていく必要があります。具体的には、国立公園内において、ホームページ・看板・パンフレット等により魅力を伝える広報を行うこと、国立公園までアクセスしやすい多様なサービスを整えること、訪れた人が「魅力を発信したい」と感じるような充実した自然体験を提供することが重要です。

また、プロモーションに当たっては、対象市場にあわせて伝えるべき内容の絞り込みを行うことが重要です。

加えて、効果的なプロモーションを実施するため、地域においてプロモーションや受け入れに関わる事業者や住民にも霧島錦江湾国立公園の魅力や取組を周知する、いわゆる「インナープロモーション」も重要です。



<「興味を持ってもらう」ためのプロモーション>

(新型コロナウイルスの感染拡大の収束前の段階)

- ・国内さらにはエリアを絞り、九州内、隣県、県内等からの利用者をターゲットとし、それらターゲットへ効果的・効率的に発信できる媒体・内容を通じて、興味を持ってもらうプロモーションを実施します。

(新型コロナウイルス感染拡大の収束後、地域の実情を踏まえて徐々に進めていく段階)

上記プロモーションに加えて、ターゲットを拡大した下記プロモーションを徐々に展開する。

- ・鹿児島空港及び宮崎空港で運航する海外定期路線就航地への積極的なプロモーションやセールスを行うことによる海外定期路線の維持・拡充に取り組みます。
- ・九州北部地域における主要交通拠点となる空港や港での国立公園のプロモーションを実施します。
- ・海外向けメディアや有力ブロガー、旅行会社等を招聘し、国立公園の各コンテンツの改善意見をもらうとともに、国立公園の魅力について海外へ情報発信してもらうためのファムトリップやビジネスマッチング会議を実施します。
- ・ツーリズム EXPO や各種商談会などに参加し、国内外の旅行会社・OTA (Online Travel Agent) 等へのアプローチを行います。
- ・国立公園オフィシャルパートナーの企業・団体等と連携してプロモーション活動を推進します。
- ・国内外の登山用品店等でのプロモーションキャンペーンの展開を検討します。
- ・日本のガイドブック等を外国向けに出版している企業へのアプローチを行います。

＜「行ってみようと思ってもらう」ためのプロモーション＞

（新型コロナウイルスの感染拡大の収束前の段階）

- ・国内さらにはエリアを絞り、九州内、隣県、県内等からの利用者をターゲットとし、それらターゲットが来訪する際の宿泊や有料体験プログラム等により、地域内での消費拡大に寄与するようなプロモーションを実施します。

（新型コロナウイルス感染拡大の収束後、地域の実情を踏まえて徐々に進めていく段階）

上記プロモーションに加えて、ターゲットを拡大した下記プロモーションを徐々に展開します。

ホームページ・看板・パンフレット等による広報

- ・国立公園の魅力を Facebook や Instagram のような SNS で定期的、日常的に発信します。
- ・自治体等の既存の観光サイトで、動画等を活用した国立公園の魅力に関する情報発信を実施します。
- ・共通の認識のもとでのマークの使用や、統一した多言語表記の看板を作製します。

イベントの開催にあわせた情報発信

- ・CIR（国際交流員）等外国人材を活用した観光・イベントの発信を実施します。
- ・霧島国際音楽祭及び霧島ジオパークの取組と連携した情報発信を実施します。
- ・地域で開催される各種イベントにおいて、霧島錦江湾国立公園の魅力や取組を周知し、地域一体となった効果的なプロモーションを推進します。

交通インフラサービスの充実

- ・高速道の良好なアクセスを活かした外国人観光客向けのドライブキャンペーンを九州レンタカードライブ協議会と連携して実施します。
- ・鹿児島県や宮崎県へ寄港するクルーズ船の誘致を促進します。

5. 効果検証

- ・個別の取組については、各施設の利用者数や各スポットの入込者数を用いて検証します。
- ・利用者アンケート等によって、分野ごとの満足度を把握し、強化すべき取組を抽出します。
- ・プログラムの実施により自然資源が損なわれる恐れが想定される場合は、自然資源保全のための計画策定を検討します。
- ・本プログラムは、今後、行政や民間等の関係者が連携し、これから検討していく取組の方向性を示したものであり、今後も霧島錦江湾地域協議会の体制を維持し、年1回程度の協議会の開催に加え、随時部会で各取組の状況等を踏まえて評価・議論を行います。
また、それらの結果は本ステップアッププログラムの改訂や翌年度の取組に反映させていくこととします。

参 考

国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会 設置要綱

平成 28 年 9 月 8 日 施行
平成 31 年 1 月 30 日 改訂
令和 3 年 1 月 29 日 改訂

(目的)

第 1 条 国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを霧島錦江湾国立公園において推進するための具体的なプログラム（以下「ステップアッププログラム」という。）を策定し、実施していくことを目的に、関係機関の相互の連携を図るため、霧島錦江湾地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項)

第 2 条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。

- (1) 霧島錦江湾国立公園及びその関連地域における国立公園満喫プロジェクトの推進に関する事項
- (2) 「ステップアッププログラム」の策定及び実施に関する事項
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要と認められる事項

(構成員)

第 3 条 協議会は、別表に掲げる関係機関等をもって構成する。

- 2 協議会は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。

(会議)

第 4 条 会議は、必要に応じて事務局が招集する。

- 2 議事は、事務局において進行する。

(地域部会)

第 5 条 霧島錦江湾国立公園の霧島地域、桜島・錦江湾奥地域及び指宿・佐多地域、並びにその関連地域における具体的な事項を検討するため、霧島地域部会、桜島・錦江湾奥地域部会及び指宿・佐多地域部会を設置する。

- 2 霧島地域部会では、次の事項について所掌する。

- (1) 「ステップアッププログラム」のうち霧島地域及びその関連地域に関する事項の検討
- (2) 「ステップアッププログラム」のうち霧島地域及びその関連地域に関する事項の推進

- 3 桜島・錦江湾奥地域部会では、次の事項について所掌する。

- (1) 「ステップアッププログラム」のうち桜島・錦江湾奥地域及びその関連地域に関する事項の検討
- (2) 「ステップアッププログラム」のうち桜島・錦江湾奥地域及びその関連地域に関する事項の推進

- 4 指宿・佐多地域部会では、次の事項について所掌する。

- (1) 「ステップアッププログラム」のうち指宿・佐多地域及びその関連地域に関する事項の検討
- (2) 「ステップアッププログラム」のうち指宿・佐多地域及びその関連地域に関する事項の推進

(事務局)

第 6 条 協議会の事務局は、宮崎県環境森林部、鹿児島県環境林務部及び九州地方環境事務所に置く。

第 7 条 各地域部会の事務局は、該当県及び九州地方環境事務所に置く。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、地域部会の運営に関し必要な事項は各地域部会の事務局において、その他、協議会の運営に関し必要な事項は協議会の事務局において定める。

附 則 この要綱は、平成 28 年 9 月 8 日から施行する。

附 則 この要綱は、平成 31 年 1 月 30 日から施行する。

附 則 この要綱は、令和 3 年 1 月 29 日から施行する。

別表

国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会構成員

構成員		
国	九州農政局	農村振興部地方参事官
	九州森林管理局	計画保全部長
	九州地方整備局	企画部長
	九州運輸局	観光部長
	九州地方環境事務所	所長
県	宮崎県	環境森林部長 商工観光労働部長
	鹿児島県	環境林務部長 P R ・ 観光戦略部長
地方自治体	都城市	市長
	小林市	市長
	えびの市	市長
	高原町	町長
	鹿児島市	市長
	指宿市	市長
	垂水市	市長
	曾於市	市長
	霧島市	市長
	姶良市	市長
	湧水町	町長
	南大隅町	町長
民間	(一社)九州観光推進機構	専務理事事業本部長
	(公財)宮崎県観光協会	会長
	(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事
	鹿児島県旅行業協同組合	旅行事業部長
	宮崎銀行	地方創生部長
	鹿児島銀行	地域支援部長